

第1回（仮称）栗原インターチェンジ整備事業推進協議会の概要

1 開催日時・場所

日 時：平成31年1月30日（水）10時から11時まで

場 所：栗原市役所205・206会議室

2 出席者（構成員）※代理出席

栗原市長（会長）

登米市長（※）

国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所 副所長

宮城県土木部道路課長（※）

宮城県北部土木事務所栗原地域事務所長

宮城県築館警察署長

東日本高速道路株式会社東北支社総合企画部総合企画課長（※）

公益社団法人 宮城県トラック協会 栗原支部長

一般社団法人栗原市観光物産協会会長

栗原ブロック商工会連絡協議会長

3 議 事

- ・（仮称）栗原インターチェンジ計画概要について

4 議事概要・まとめ

○ 構成員からの主な意見

- ・ 栗原ICは、栗原市が検討している「中核機能地域の設定」や「道の駅」などとあわせ、地域観光の新たな玄関口となることが期待される。
- ・ 栗原ICの整備により、新たにラムサール条約湿地に登録された南三陸町の志津川湾から、登米市、栗原市、大崎市までの登録湿地を巡る広域連携のイメージがより鮮明になる。
- ・ みやぎ県北高速幹線道路のⅡ期工区が開通し、やはり現道を通るより利便性が良いとの声が聞こえている。栗原ICの整備などで、現道の渋滞状況などに応じたルートを選択肢が増えることはメリット。
- ・ 新しいルートはナビに出ないため、観光客が通行可能なルートを探せず、結果として遠回りしている現状がある。整備段階から、観光客にとって分かりやすい道案内をすべき。

○ 学識経験者からの参考意見（東北工業大学工学部 菊池 輝 教授（交通工学）より事前聴取）

事業計画について、妥当であると思慮される。なお、以下の点について配慮が必要と思われるので参考とされたい。

- ① 産業支援の役割を担う栗原ICは、大型車の利用見込みを考慮の上、通行に十分耐えうる構造を確保すること。
- ② 関係自治体や観光団体等と十分に連携し、宮城県を通過する広域観光だけではなく、県内の高規格道路網を活用し、県内に観光客を留めるようなルートの検討や事例収集をすること。

○ 第1回協議会のまとめ

- ・ 事業計画の内容・妥当性を確認した
- ・ 引き続き、円滑な事業の推進ならびに有効な利活用に向けて、議論していく。